

## 町民を癒やす文化芸術の拠点が復旧

### 益城町文化会館リニューアルオープン記念事業

熊本地震からの復旧が完了した益城町文化会館で7月3日、リニューアルオープン記念事業が開催されました。

記念事業は、本町の太鼓チーム「弾正太鼓」と「紅太鼓」による演奏で幕開け。その力強い演奏に、会場の空気が一気に盛り上がりました。

式は、益城町復興大使・今吉めぐみさんの司会により進行。まず、益城文化会館管理運営企業共同体の尾池千佳子代表があいさつ。次に、主催者として西村町長が、「熊本地震からの復旧工事を終え、災害に強い施設に生まれ変わりました。災害やコロナ禍で疲れきった人たちの心を癒やすのは文化芸術です。今後、より一層文化事業に力を入れていきたい」と決意を述べました。

さらに、特別ゲストとして、平成28年熊本地震と令和2年7月豪雨での互いの支援によりつながりができた、津奈木町の「つなぎ舞鶴太鼓」が登場。同町オリジナル曲「せり舟」他1曲を披露しました。つなぎ舞鶴太鼓の代表者は、「熊本地震の時に支援に来て、その時から益城町で演奏したいと思っていました。今回やっと実現できました」と話しました。



1 開演前のホール 2 3 町の太鼓チームによる迫力ある演奏(2弾正太鼓 3紅太鼓) 4 ゲストとして登場したつなぎ舞鶴太鼓



ここで一旦幕が下り、町復興大使によるステージイベントの準備へ。その幕間に、今吉さんと町復興大使を務める落語家・三遊亭好吉さんが場をつなぎ、同会館で行われた成人式に参加したことや、初めて同会館で落語をした時に親戚一同が見に来た思い出などを語りました。

第2部の開演は、同じく町復興大使を務める津軽三味線奏者・高崎裕士さんによるスペシャルライブ。夏やふるさと感じる曲など5曲を披露しました。来場者たちは、時に手拍子、時には目を閉じ聞き入っていました。

次に、好吉さんによる「福幸落語」が行われ、「益城町」をお題にした謎かけなどアドリブを交えながら、会場の笑いを誘いました。

最後に町復興大使3人がそろい、軽快なトークで来場者たちを楽しませ、文化会館のリニューアルオープン初日のイベントは幕を閉じました。

5 司会進行を務めた今吉さん 6 高崎さんによるスペシャルライブ 7 笑顔を届けた好吉さん 8 益城町復興大使3人のトーク

